

# 台湾及びポルトガルにおけるICF及びICF-CYの活用に関する動向

徳永 亜希雄

(教育支援部)

**要旨：**本研究所の「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究－活用のための方法試案の実証と普及を中心に－」の研究活動の一環として訪問した、台湾及びポルトガルにおけるICF及びICF-CYの活用に関する動向として、台湾については台湾ICF/ICF-CY研究会議、ポルトガルについては同国の当該システム及び訪問した学校の様子を中心に報告した。台湾については、初の全国規模のICF/ICF-CYに関する研究会議が開催され、講義の他に参加者による研究発表と協議が活発に行われていた。ポルトガルについては、障害者権利条約批准後、special educationの充実のために法令レベルでICF-CYの活用を位置づけ、さらにそれを支える研修や、研修効果を検討する研究活動等の一連の取り組みが行われていた。いずれも、本研究の推進にとって有用な資料を収集することができる興味深い訪問となった。今後も、両国を含めた各国の関係者との研究交流を継続し、世界全体の動向の中での日本での取り組みを対象化しながら研究を進め、学校現場等での実践への貢献と諸外国への成果の発信を進めていきたい。

**見出し語：**ICF-CY, 台湾, ポルトガル, special education

## I. はじめに

本稿では、本研究所の専門研究A「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究－活用のための方法試案の実証と普及を中心に－（平成22年度～23年度）」の研究活動の一環として訪問した、台湾及びポルトガルにおけるICF（国際生活機能分類）及びICF-CY（同児童版）（以下、ICF/ICF-CY）の活用に関する動向について報告する。

本研究所における、ICF/ICF-CY活用に関する研究では、これまでも諸外国のICF/ICF-CY活用の取り組み等を報告したり、得られた研究成果を国際会議等で報告したりしてきた（徳永，2006；大内，2008；徳永・田中，2008；徳永，2010）。本研究においては、日本の特別支援教育におけるICF/ICF-CYの活用について検討するため、諸外国のICF/ICF-CY研究について情報収集をしながら、進めてきた。

今回の両国への訪問は、これまでの関連研究で連携を続けてきた、WHOのICF-CYのワーキンググループ議長を務めた、アメリカノースカロライナ大学 Rune J. Simeonsson教授を介して国際会議で知り合い、以来、研究交流を続けてきた両国の研究チーム

のアレンジによって実現した。台湾については台北市の長庚大学のスタッフらによる研究チームが、ポルトガルについては、ポルト市のポルト教育大学のスタッフらによる研究チームが、それぞれアレンジの労を執ってくださった。

台湾への訪問については、台湾初の全国規模のICF/ICF-CYに関する研究会議に参加し、台湾でのICF/ICF-CYの活用動向について資料を収集し、協議することと、台湾において翻訳・発行が計画されていた、本研究所が2007年に出版した「ICF及びICF-CYの活用：試みから実践へ－特別支援教育を中心に－」についての意見交換をすることを目的とした。

ポルトガルについては、2008年に同国教育省から出された、子どもがspecial educationの対象となるかどうかをICF-CYを活用して評価し、対象となると判断された子どもに対して個別教育計画を作成するための法令について、詳しい内容や法令のもとでの実践の実施状況について把握すること、そしてその評価に関する研究の進捗状況について協議をすることが目的だった。

以下、台湾については全国ICF/ICF-CY研究会議、ポルトガルについては同国の当該システム及び訪問

した学校の様子を中心に報告する。

## Ⅱ. 第1回台湾ICF/ICF-CY研究会議参加報告

### 1. 訪問の概要

2011年3月26～27日、台湾の台北市で開催された台湾ICF/ICF-CY研究会議（The First National ICF and ICF-CY Conferences and Workshops）に参加した。同会議は、台湾における早期療育に関する組織とリハビリテーションに関する組織によって開催されたもので、前述のSimeonsson教授による講義、台湾の参加者による研究発表及び協議が行われた。**写真1・2**は当日の会場の様子である。



写真1 会場の様子①



写真2 会場の様子②

### 2. 会議の概要

主催者によると、「台湾でのICF/ICF-CYの活用は始まって2年目であり、まだまだこれから」とのことだったが、様々な活用や研究の取り組みについて口頭発表6本、ポスター発表18本が行われ、活発な議

論が交わされた。口頭発表とポスター発表のタイトルは以下のとおりである。

#### <口頭発表>

1. The Hypothetic Models Based on ICF-CY in Infants and Toddlers with Motor Delays-with Mobility (d4) and Body Functions as the Outcomes
2. Development, reliability and validity of scale of activities of daily living based on ICF
3. Interaction of Mastery Motivation and Parental Teaching Behaviors on Motor Function of Children with Motor Delay: Investigation Based on ICF-CY Framework
4. The analysis of experiment result using ICF-Newly made assessment of persons with Disability in Hualien
5. Needs assessment for individuals with disabilities, resources, and policy planning Social Participation with Friends of Youths with Cerebral Palsy Differs Based on Their Self-Perceived Competence as a Friend
6. Social Participation with Friends of Youths with Cerebral Palsy Differs Based on Their Self-Perceived Competence as a Friend

#### <ポスター発表>

1. Multi-disciplinary Teamwork of Early Intervention Assessment with International Classification of Functioning, Disability, and Health
2. Application of ICF-CY to Early Intervention ---A Case Study
3. The case study of ICF-CY application
4. ICF-CY Linked Environmental Predictors for Developmental Outcomes in Infants and Toddlers with Motor Delays -A Systematic Review
5. The study of the correlation between activity participation and employment for persons with chronic mental illness in Taiwan
6. Health-related Quality of Life in Preschool Children with Cerebral Palsy of Different Motor Impairment Severities
7. Developing ICF core set for post-stroke disability assessment and verification in Taiwan, from, the social

- security per spective
8. The effectiveness of home-based intervention for infants and toddlers with developmental delays ---A Case report from the viewpoint of ICF-CY
  9. Using the ICF model to improve team collaboration of early intervention -case report
  10. Application of ICF-CY Framework for Nursing Staff to Neonatal Intensive Care Unit -An Example of a Premature Baby
  11. Evaluation with the scale of activities of daily living based on ICFCY: case study for the hand impairment of 11 y/o child
  12. Chinese Translation of the Preschool Activity Card Sort (PACS) -An Assessment Tool for Participation
  13. Relationships of Balance Function and Quality of Life in Preschool Children with Cerebral Palsy of Different Motor Severities: A Preliminary Study
  14. The Functional Subtypes of Children with Developmental Coordination Disorder
  15. Physical Therapy and Application of ICF Model for a 22 y/o Male with Traumatic Left Anterior Descending Artery (LAD) Dissection, Heart Failure Status Post Left Ventricular Assist Device (LVAD) Implantation: A Case Report
  16. Application of ICF-CY Model for Infants and Toddlers with Psychomotor Retardation: a Case Report
  17. Implementation of ICF/ICF-CY in Hospital-Based Pediatric Physical Therapy
  18. Effects of Collaborative Home-Visiting-Program Based on ICF-CY For Infants And Toddlers with Motor Delays

本会議では、取り組みの内容だけでなく、主催者及び参加者の熱意や英語力の高さ等も含め、参考になることが多い会議だった。本研究では、日本の特別支援教育実践におけるICF/ICF-CY活用に資するために、学校現場等で多く活用され、また特別支援学校学習指導要領解説書の中でも推奨されている概念モデルをベースにした活用を中心に据えて取り組んでいる。しかしながら、台湾においては、これ

まで出席してきたICF/ICF-CY国際会議同様、概念モデルを基本としながらも、ICF/ICF-CYの分類項目及び評価点を用いた多職種間連携のための活用が積極的に行われ、あらためて世界の大きな流れを認識することになった。

今後も、台湾の研究チームとは交流を続けることを確認した。今回の訪問では、冊子の翻訳・発行の打ち合わせが目的の一つであり、その冊子は、2011年5月に刊行された。

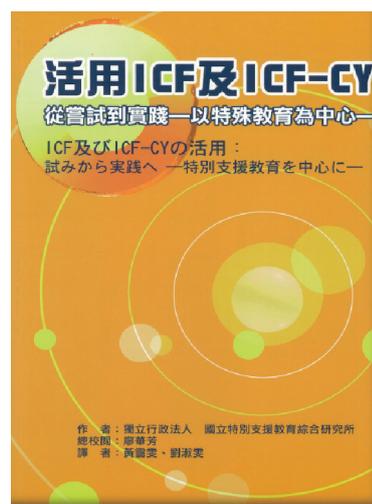


写真3 表紙の写真

### Ⅲ. ポルトガルのspecial educationにおけるICF-CYの活用に関する動向

#### 1. 訪問の概要

2011年10月2～9日、ポルト市にあるポルト教育大学ICF/ICF-CY研究チームとの協議を中心に、首都リスボンにある教育省やポルト市近郊の学校の訪問も行った。教育省では、special educationの制度や同法令の詳細について担当官から情報収集を行った。以下、ICF-CYを活用した同国のspecial educationの概要と学校訪問の様子を報告する。

#### 2. ICF-CYを活用したspecial educationの概要

##### 1) 幼稚園、小・中学校におけるICF-CYを活用したspecial educationの必要性の判別

既に障害者権利条約を批准し、インクルーシブ教育が推進されているポルトガルでは、幼稚園・小・中学校をベースにした教育が推進されている。2008

年、同国教育省はspecial educationの対象となるかどうかについてICF-CYの分類項目を活用して子どものアセスメントを行い、対象となる子どもの個別教育計画を作成することを定めた法令を公布し、同年から施行している。同国での取り組みの流れについて、2008年にポルトガル教育省から発行された教員向けのマニュアル中の図について、現地で行った聞き取り調査の結果をもとに仮訳し、図1に示した。なお、マニュアル中では、本研究所からの論文も引用されている。

なお、これらの推進にあたっては、地域の幼・小・中等への支援センターとして改編された、公立の旧special schoolの資源が活用されている。

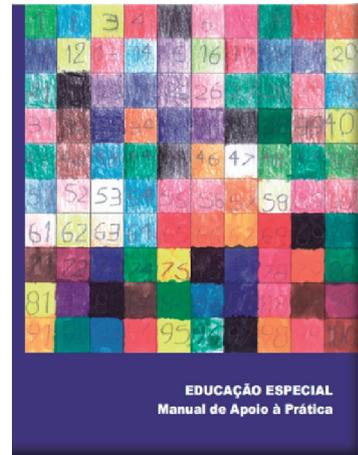
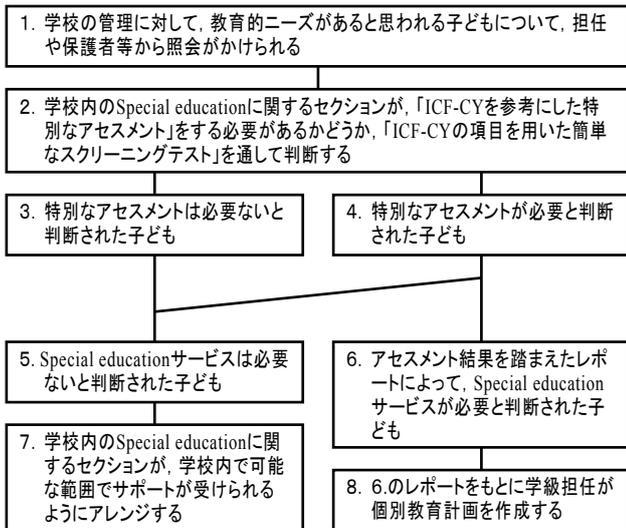


写真4 教員向けのマニュアルの表紙

図1 special educationの必要性の判別過程の概要

2) special education実践を支える取り組み

まず、学校（幼稚園を含む、以下同じ。）の管理職に対して、学級担任や保護者等から特別な教育的ニーズがあると思われる子どもについて照会がかけられた後（図中の1）、学校内のspecial educationに関するセクションが「ICF-CYの項目を用いた簡単なスクリーニングテスト」を通して「ICF-CYを参考にした特別なアセスメント」をする必要があるかどうか判断する（図中の2）。そして、special educationサービスが必要と判断された子どもについてはレポートが作成され、学級担任によって個別教育計画が作成されることになっている（図中の4・6・8）。

同国教育省は、これらの取り組みを進めるため、全国の23の大学に委嘱して現職研修を行うと共に、校長向けのマニュアルも発行している。同研修については、これまで約5,000人の教職員が受講しているとのことだが、コースの詳細は、各大学で決めているとのことだった。さらに、ポルト教育大学内の研究チームに委嘱し、研修受講者の追跡調査等によりこれらの取り組みの成果についての検討が進められている。

後述する訪問した学校での聞き取り調査では、小・中学校ユニット内の複数のspecial education担当の教員から、子どもにあったサービスが展開できる現行システムの手応え等についての意見が多く出され、同システムの成果がうかがえた。

同学のものは、全25時間、6セッション、1回4時間、6回目のみ5時間のコースとなっている。本コースは義務ではなく、平日の午後6～10時に希望する教員が受けているとのことだった。以前は日本の免許更新制のようなものがあり、その単位となっていたが、今は制度が変わり更新制そのものがないとのことだった。研修についての事後調査と分析が丁寧になされており、日本での研修に比べてかなり完成度が高い印象を持った。

なお、同学の、研修のプロセスにおいて、日本の「ICF関連図」も活用されており、その資料が、Tokunaga Sheetと書かれてあったのを見て驚くと共に、英語での研究成果の発信の重要性を再認識した。

同学研究チームとの最後のセッションでは、法令改正後の推進状況調査の結果について説明を受け、

併せて全体協議を行った。推進による効果について、質問紙調査、インタビュー調査など、適正な研究手続きのもとで行われ、現在分析が行われている。行政と一体となった施策研究が展開されており、法令改正の内容だけでなく、本研究所としての業務展開の点からも大いに参考になると感じた。

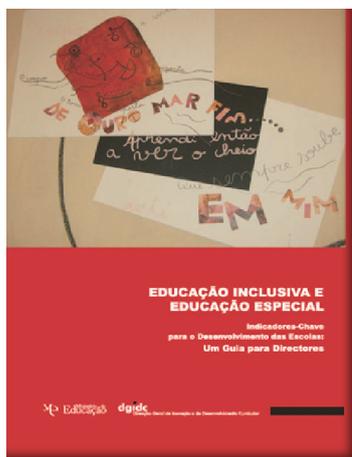


写真5 校長向けのマニュアルの表紙



写真6 全ての子どもが使用するランチルーム



写真7 special education対象の子ども教室

### 3. 学校訪問の概要

ポルト教育大学ICF研究チームのスタッフと共に、ポルト市のベッドタウンに位置するAguas Santas学校ユニットの中の3～10歳対象の学校とヘッドスクールといわれる10～18歳対象の学校を訪問した。そこでの校長やspecial education担当教員らと共に学校の見学と学校全体及びspecial educationの現状について説明を受け、協議を行った。

同ユニットは、ヘッドスクールの下に6つのprimary schoolと3つのkindergartenがあり、ユニット全体では3,000人の子どもがいる。現在、3,000人中70人がspecial educationの対象となっている。インクルーシブ教育がベースなので、可能な範囲で学年のクラスで学習するが、学校内にあるspecial education対象の子ども用の教室でも学習する。いわゆる通常学級での学習は、日本の交流及び共同学習と同様に見えるが、インクルーシブ教育がベースなので、概念的には異なる。

法令改正での新たな動きの中、校内体制や個別教育計画等について、複数の教職員に(かなりしつこく)質問し、協議したが、前述のとおり、少々仕事は増えたが、素晴らしい取り組みであるという積極



写真8 同室内に設置されたおむつ交換用ベッド



写真9 special education担当教員控え室と個別教育計画

的な意見ばかりが返ってきたのが印象的であった。

#### IV. 終わりに

以上、台湾及びポルトガルにおけるICF/ICF-CYの活用に関する動向として、台湾については全国ICF/ICF-CY研究会議、ポルトガルについては同国の当該システム及び訪問した学校の様子を中心に報告した。いずれも、本研究の推進にとって有用な資料を収集することができる興味深い訪問となった。

台湾については、世界の流れと連動した取り組みの内容だけでなく、主催者及び参加者の熱意や英語力の高さ等も含め、参考になるところが多かった。

ポルトガルについては、障害者権利条約批准後、special educationの充実のために法令レベルでICF-CYの活用を位置づけ、さらにそれを支える研修や、研修効果を検討する研究活動等の一連の取り組みはたいへん興味深く、参考になるものであった。

今後も、両国を含めた各国の関係者との研究交流を継続し、世界全体の動向の中での日本での取り組みを対象化しながら研究を進め、学校現場等での実践への貢献と諸外国への成果の発信を進めていきたい。

#### 文献等

国立特別支援教育総合研究所 (2007). ICF及びICF-CYの活用：試みから実践へー特別支援教育を中心にー。ジヤース教育新社。

国立特別支援教育総合研究所. 特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究ー活用のための方法試案の実証と普及を中心にー. <http://www.nise.g>

[o.jp/cms/8,559,18,105.html](http://www.nise.g.o.jp/cms/8,559,18,105.html)

大内進 (2008). イタリアにおけるICF及びICF-CY活用動向. 国立特別支援教育総合研究所, 「ICF児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」成果報告書 (pp.149-155).

ポルトガル教育省. Educação Bilingue de Alunos Surdos -Manual de Apoio à Prática (インクルーシブ教育のための教員向けマニュアル). <http://www.dgicd.min-edu.pt/educacaoespecial/index.php?s=directorio&pid=6>

ポルトガル教育省. Educação Inclusiva e Educação Especial: Um Guia para Directores Educação Especial -Manual de Apoio à Prática (インクルーシブ教育のための校長向けマニュアル). <http://www.dgicd.min-edu.pt/educacaoespecial/index.php?s=directorio&pid=6>

徳永亜希雄 (2006). ICF及びICF version for Children and Youth (国際生活機能分類児童青年期版) を巡る動向. 世界の特別支援教育, 20, 29-33.

Tokunaga, A. (2007). Trends and Perspective of the Use of International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) on Special Needs Education in Japan. Journal of Special Education in the Asia Pacific, 2, 11-20.

徳永亜希雄・田中浩二 (2008). ICF及びICF-CYを巡る国際的動向：ICF北米協力センター会議、ICF-CY会議及びWHO国際分類ファミリー会議の概要を中心に. 世界の特別支援教育, 22, 19-26.

徳永亜希雄 (2010). 諸外国における学校教育へのICF-CY (国際生活機能分類児童版) 活用の取り組み. 世界の特別支援教育, 24, 29-33.